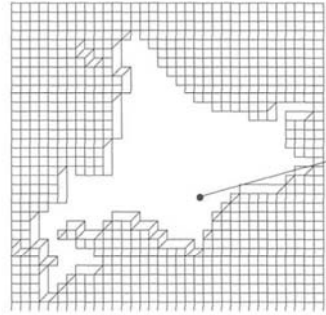


連載



芽室町

あのマチ
・地域おこし活躍中
このムラ

No.26

芽室町の事例

― 農畜産物生産と人づくりで、新たな「二世紀」へ ―

◇芽室町の概要

※三人の「晩成社」幹部（鈴木銃太郎、渡辺勝、高橋利八）は、シブサラを目指して十勝平野を西へと分け入った。明治十九年六月二十三日のことであった。シブサラとは、今日の西士狩であり、この日が、記念すべき「芽室の夜明け」となった。※

以来一〇余年、幾多の困難を克服し芽室は豊かな近代農業地帯となった。地勢は十勝平野のほぼ中央、北海道の東南部にあり、隣

接する帯広市から一三km、道都札幌市から二三五kmに位置する。秀麗な日高山脈を背に東西二三km、南北三五km、総面積五一四km²を擁する。その四割が農地、ほか四割が山林である。中央部を東西に十勝川が貫き、これに美生川、芽室川が流れ肥沃で平坦な大地を形成している。気候は内陸性、国内有数の晴天率を誇る。平均気温は六℃で寒暖差は大きく夏三〇℃以上、冬氷点下二〇℃以下となる。人口は一萬八二六三人で、世帯数は六三九

四（平成十三年八月末現在）である。産業別の状況を見ると、基幹産業である農業は、肥沃な大地に恵まれ、食糧基地十勝の代表的作物である豆類・ビート・馬鈴薯・スイートコーン・小麦などの畑作物や酪農畜産業で道内有数の生産量を誇っている。

工業は、地理的条件、輸送条件の良さ、帯広市に隣接しているという立地条件を生かし、豊富な農林産物など地場資源を活用した食料品製造業を中心に発展し、さら

に工業団地の造成や企業誘致などを通じ、活性化をはかっている。

観光は、緑の自然に恵まれたスポーツと行楽のレジャーゾーン「新嵐山スカイパーク」を中心に町民と近隣町村からも多くの人を迎えている。また日本一早い祭り「元旦〇時発「裸みこし」」のイベントも開催している。

今年開町一〇一年を迎え、「自然と人間が共生するまちづくり」を展開し、新たな「二世紀」を築きつつある。

表 1 芽室町農業の概要（平成 12 年）

項目	単位	全道	十勝	芽室町	全道順位	
総土地面積	千 ha	8,345.20	1,083.10	51.4	60	
耕地面積	千 ha	1,185.00	258.8	21.7	6	
耕地内訳	田	千 ha	235.0	1.0	—	
	畑	千 ha	949.6	257.8	21.7	
	畑内訳	普通畑	千 ha	413.8	175.3	19.8
		樹園地	千 ha	3.6	0.1	—
		牧草地	千 ha	532.3	82.4	1.9
耕地率	%	14.2	23.9	42.2	—	
一戸当たり耕地面積	ha	16.9	34.1	29.1	—	
農家戸数		戸	69,841	7,582	745	—
	うち専業農家戸数	戸	29,051 (45,217)	5,087 (6,649)	480 (701)	—
	専業農家率	%	41.6 (64.7)	67.1 (87.7)	64.4 (94.1)	—
農家人口	人	281,023	35,653	3,835	—	
農業従事者数	人	133,207 (132,160)	20,933 (19,698)	2,259 (2,173)	—	

◇芽室町の農業

農耕期間（五月～九月）の平均気温は一五℃、降水量は六九〇mm、無霜期間一四〇日を超える恵まれた気象と自然環境にある。耕地面積は、二万一七〇〇畝で内訳は普通畑が一万九八〇〇畝、牧草地一九〇〇畝である。

耕地面積の主な作付内訳を見ると、小麦六一〇〇畝、てんさい三六五〇畝、馬鈴薯三五三〇畝、豆類二〇〇七畝、野菜類一五二二畝、牧草等二九四〇畝となっている。

畑作物に占める品目別割合を見ると、小麦三六・三％、てんさい二一・七％、馬鈴薯二一％、豆類一一・九％、野菜類九・三％となっている。

因みに馬鈴薯の用途別作付け割合は、加工用四三％、食用三五・三％、澱粉原料用一六・一％、種子用七・六％である。この比率から、馬鈴薯に付加価値を付ける努力がみとれる。次に品種を見ると加工用はトヨシ

口が五四・八％で一番、食用ではメークインが六七・六％と一番多くなっている。

家畜飼養頭数は、乳用牛七四七〇頭、肉用牛九一〇〇頭、肉豚九二六〇頭となっている。

農家人口は三八三五人、農家戸数は、七四五戸。一戸あたり耕地面積を見ると二九・一畝となっている。

次に農業粗生産額を見てみよう。耕種一七八億二八〇〇万円、畜種三九億九〇〇〇万円、あわせて一八億一八〇〇〇万円（平成十一年産）である。品目別に見てみよう。馬鈴薯四億一四〇〇万円、麦類四〇億八七〇〇万円、野菜類三八億八〇〇〇万円、てんさい三四億二八〇〇万円、豆類一九億九六〇〇万円、他方畜種の乳用牛二九億五六〇〇万円、肉用牛六億三三六〇〇万円となっている。また農家一戸当たりの生産農業所得は、一〇九八万八〇〇〇円であり、この所得は全道で九位と高い地位を占めている。

表2 芽室町農業の概要（平成12年）

項目		単位	全道	十勝	芽室町	全道順位
作付面積	水稻	ha	134,900	165	—	—
	小麦	ha	103,200	43,000	6,100	3
	ばれいしょ	ha	59,100	24,700	3,530	2
	大豆	ha	16,200	3,420	184	28
	小豆	ha	30,000	12,500	1,600	2
	いんげん	ha	11,300	8,600	223	18
	てんさい	ha	69,200	30,600	3,650	2
	スイートコーン（H11 概数値）	ha	9,940	4,310	935	1
	サルーヅ 用とうもろこし	ha	36,900	16,200	595	18
	牧草	ha	576,300	104,100	2,940	51
乳牛飼養頭数（H12.2.1）		頭	866,900	206,800	7,470	36
肉牛飼養頭数（H12.2.1）概数値		頭	413,500	159,500	9,100	—

表3 芽室町農業の概要（平成12年）

項目		単位	全道	十勝	芽室町	全道順位
収穫量	水稻	t	729,100	842	—	—
	小麦	t	378,100	197,100	30,300	3
	ばれいしょ	t	2,161,000	879,800	129,000	2
	大豆	t	43,100	10,600	596	24
	小豆	t	75,800	38,100	5,180	2
	いんげん	t	13,700	9,290	176	25
	てんさい	t	3,673,000	1,637,000	213,200	2
生乳生産量（11年）		t	3,633,723	896,044	33,456	33
農業粗 生産額 （11年）		百万円	1,057,400	227,790	21,818	4
	耕種粗生産額	百万円	599,310	127,830	17,828	2
	畜産粗生産額	百万円	457,790	99,960	3,990	41
農家一戸当たり生産農業所得（11年）		千円	5,341	10,158	10,988	9
耕地10a当たり生産農業所得（11年）		千円	33	34	42	—
農業専従者一人当たり農業所得（11年）		千円	3,024	4,089	3,940	—

（農林水産統計・北海道基本調査・2000年農林業センサス）

※「うち専業農家戸数」「専業農家率」－上段→専業農家、下段→主業農家

※「農業従事者数」－上段→自営農業だけに従事した人、下段→基幹的農業従事者

◇直売所

ハファーマーズ

マーケット

本年七月一日、生産者の顔が見える「直売店」を目指し、採れたての新鮮で安全な地元の野菜・果物・花を提供します、との目的で開設された。名称は「ファーマーズマーケット」。運営は農協。出品者は現在二八名で、内訳は、平成

六年から直売で直接食べてもらおうと、先行して直売所を始めていた、北新生の野菜組合「愛菜屋」の六人と「野菜生産者グループ」二二人である。

店舗に入ってみよう。場所は帯広市から来ると左手に老人福祉施設「りらく」が見える。その先に大きな看板が目印の場所。「フレッシュシユベジタブル」の看板を掲げた店舗には、なす・ピーマン・ブロッコリー・チソ・えだまめ等々のアイテム数五七の野菜がずらりと並んでおり、品数の多さに嬉しい驚

きを覚えた。搬入と陳列は、朝の七時から八時の間に行われる。商品には事前に「生産者名」「品名」「品番」「値段」が入った「バーコード」が賦されている。開店時間は、朝八時から午後の六時まで。客数は平日五〇〇人から六〇〇人。土曜日曜は七〇〇人から八〇〇人で近郊の帯広市・新得町・清水町からの来店者が多い。定休日は月曜・木曜となっている。

新鮮な物をということで、売り切れのタイミングを見ながら随時販売員から出品者に連絡され商品は補充されている。販売員は時間シフトで八時から午後一時三人、一時から三時四人、三時から五時



バーコード



店舗全景



看板

三人、五時から六時一人である。主な仕事は、レジ、品物陳列、地方発送。また品物の説明と料理方法も説明することがある。

販売方法について、月一回例会「出品者会議」が開催される。当月の販売報告、翌月の販売戦略及び品薄となったり又は豊富な出回りとなる品目の価格変更等について打ち合わせる。またこの会議には、農協を介し寄せられる販売員からの要望（新商品や料理方法を教えてほしい）が検討され販売員に回答がなされる。それが即消費者に

伝えられる仕組みとなっている。

七月開設から三ヶ月経過した中で、出品者自身の直売所の効果を聞いてみた。一つは地元産が消費者にアピール出来たこと、その二は出品する女性や出品を助ける高齢者に生きがいと実益が得られたこと、その三は消費者との共生（例えば、人と人のぬくもりのあるコミュニケーション）が実現されつつある、との意見がきかれた。安全で美味しく、新鮮で地元の農産物を食べたい、また料理として食卓に出したい。長年の経験か

NEW OPEN
めむろファーマーズ マーケット
 連日好評販売中

地元野菜・くだもの・花などの『直売店』!!
 生産者の顔が見える『直売店』を目指して採れたての
 新鮮で安全な野菜を皆さんに提供いたします。

—営業日—
 7月1日(日)～11月3日(土)
 午前8時～午後6時
 定休日▶毎週 月曜・木曜



今が旬
 ・だいこん・はくさい・白かぶ
 ・レタス・キャベツ・きゅうり
 ・長なす・しいたけ・トマト
 ・ほうれん草・にんじん etc



広い駐車場で皆さんのご来店を心よりお待ちしております。
JAめむろ/野菜生産者グループ/愛菜屋
 芽室町東芽室南2線22番地
 (お問い合わせ: めむろファーマーズマーケット 電話 62-5315)



店舗内部

「この思いを強くしている消費者は、この「ファーマーズマーケット」で求めていた農産物を手にすることが出来た。また生産者の名前が分かり、顔が分かり、商品が分かる、ということまで命をつなぐ食品は「あの生産者」が作っているという、人と人の「コミュニケーション」がここでは確かなものとなっている。新鮮な地場産の農産物をPRしたい、というメッセージが伝わり始めた。

パンフレット

◇めむろ農業小学校

全国一二番目、本道初の試みとして、平成十一年から始め今年で三年目である。芽室町農林課所管で始まったこの事業は、一過性の「農業見学」ではなく「農業体験」をしてみよう、ということである。まず開設の目的は次の通り。

目的一 五感を働かせながら取り組む農作業は、体験学習の格好の素材である

子供たちに、種まきから収穫し食べるまでの体験を通し、自然・土・作物に触れる農業の素晴らしさを実感してもらえれば、の思いを込めて実施する

目的二 農業の持つ教育力に期待する

「食と農」は教科の枠組みを超え、生きる力を養うための教材と成りうるテーマである

目的三 芽室町の農業応援団づくりの一環

児童・保護者の方々に、学習と

体験を通して基幹産業「農業」を理解してもらい、今後より一層、芽室農業・農村を応援していただきたい

さて中身を見よう。

募集は、芽室町に住む小学生、保育所・幼稚園の年長組で、両者とも保護者同伴で三組。期間は五月から一〇月までで開校は月一回(日曜日)の計七回である。

さて畑に目を転じると、二種類の畑があり、一つは「みんなの畑」、二つめは「自分の畑」がある。「みんなの畑」では、芽室の主要農産物の種まきから収穫まで行う。品目はスイートコーン、さやいんげん、えだ豆、馬鈴薯(紅丸・ホツカイコガネ・ワセシロ) かぼちゃ(えびす・雪化粧・ブッチーニ・坊ちゃん・バターピーナッツ)。「自分の畑」では、面積三〇㎡に野菜・花など自由に作る。事前に取り扱い注意の種の使用方法は開講日に説明を受ける。また雑草



看板

平成十二年終了後、「大地の学舎」と題する修了文集が発行された。このなかには感想

終了式 校長である芽室町長から修了証書を授与され終了

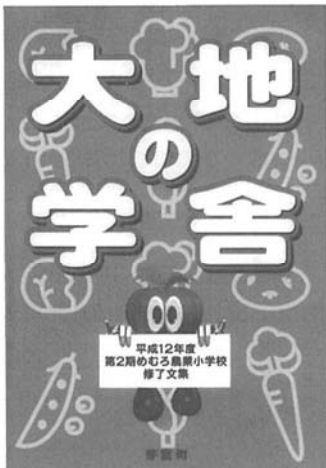
文、僕の畑・私の畑の図画、思い出写真集が掲載されている。児童の成長の記録が目に見え感動的である。農業小学校は今年で三力年経過した。「芽室町の農業応援団を一人でも増やしていきたい」との目的は、子供と親とそして祖父母も加わる「農業体験」の中で着実に根を下ろし始めている。この農業小学校での日々は、「食の原点（自分で作り収穫したものを、「おいしく」「楽しい」という至福の気持ちで食べられること）を自ら体感出来た嬉しい時間であった。今後ともこの原

文集 大地の学舎

は定期的な手入れが必要である」と、を併せて理解してもらおう。さて開校から終了までの流れを見よう。(平成十三年度の例)
五月(一回目) 開校式が行われる。引き続き勉強会で、農業小学校の約束事と種まき作業の説明があり、「みんなの畑」で馬鈴薯とスイートコーンの種まき、「自分の畑」では区画の抽選と種まき作業を行う。
五月(二回目) しいたけの駒打
成長く収穫の説明会及び「みんなの畑」でえだ豆・かぼちゃ・さやいんげんの種まき作業と「自分の畑」で種まき作業

六月(三回目) 乳業会社で牛乳から製品になるまで見学
七月(四回目) 「みんなの畑」収穫作業(さやいんげん)「自分の畑」の管理作業
八月(五回目) 「みんなの畑」収穫作業(馬鈴薯とスイートコーン)と「自分の畑」の管理作業
九月(六回目) 「みんなの畑」収穫作業(えだ豆と馬鈴薯)と「自分の畑」の管理作業、除草作業
一〇月(七回目) 「みんなの畑」収穫作業(かぼちゃと馬鈴薯)感想文発表会後、みんなで収穫した馬鈴薯でカレーライスを作り食べる

終了式 校長である芽室町長から修了証書を授与され終了



募集パンフレット



私の畑

点を一人でも多くの子供が共有することができ、この「農業小学校」の事業が、芽室町を超えて北海道内へ更に全国へと広がることを期待したい。

◇堆肥センター構想

堆肥センターの建設が現在進行中である。場所は芽室町上美地区。敷地四万八〇〇〇㎡で稼働開始は平成十六年の予定である。

平成十一年十一月「家畜排泄物の管理の適正化及び利用の促進

に関する法律」が施行され環境汚染のない糞尿処理利用体系の構築が求められている。

芽室町の農家はその処理利用タイプから見ると次のように分類できる。

一 自己完結タイプ：一連の糞尿処理工程を自己完結でき、自己活用できる施設能力を有する農家

二 堆肥センター併用タイプ：酪農専業・混同経営で処理量の半分程度を自己処理、自己活用できる施設能力を有する農家

三 堆肥センター依存タイプ：酪農専業・混同経営で処理施設不備から全量センター処理を希望する農家

四 生産堆肥活用タイプ：畑作経営中心に堆肥投入により地力増進に意欲的に取り組む農家

右記の分類から当センターは、タイプの一、三、四をカバーし畜産農家と畑作農家の営農に貢献す

るものである。施設概要は、一次発酵施設一棟、二次発酵施設一棟、乾燥施設四棟で現在一次発酵施設が建設中である。二次発酵施設、乾燥施設が次年度以降、平成十六年のオープンに向け建設予定である。

堆肥製造は、年間に原料堆肥三万ト（芽室町内から一万ト、町外から二万ト）を畜産農家から集め、一万五〇〇トの製品を生産する。出来上がる製品の水分は、四〇％と計画している。また製品の配送や散布の仕組みについても現在検討中で稼働時点で円滑に運用されるべく詰めがなされている。

センターの堆肥を使用した土づくりにより、畑作農家の安定収量、馬鈴薯病害の予防、小麦・豆類の品質向上が期待されるとともに、畜産農家においては環境汚染のない力強い営農展開が可能となり地域全体の「農業生産基盤の確立」に寄与する、と熱い眼差しが寄せられている。

◇まとめ

今回レポートした、直売所「ファーマースマーケット」は、消費者に生産者の顔・名前がみえる農産物を渡す、という場の提供を行い「新鮮な地場物」を食べていただく仕組みを作り上げつつある。また芽室町が進める、「農業小学校」は農業体験を通して、命をつなぐ食品の尊さと子供・親・祖父母との農業体験が、農業応援団を育てることにつながり、ひいては人づくりにつながっていることを感じた。最後に、堆肥センター構想と土づくりを見ることで、これからの農業生産基盤の確立を目指した着実な歩みを捉える事が出来た。

以上の動きから、芽室町の「新たな二世紀」は、地域農業振興に立脚した農産物生産と人づくりをとおり、農業応援団により飛躍を遂げるであろうとの感を強くした。

レポート

専任研究員 川原 和雄